

## 2-5. 土地利用と大規模開発および人口の推移

### 2-5-1. 土地利用に関する5地域間の比較

各広域モニタリング地域について国土数値情報によって解析を行った（図Ⅱ-2-1 1 および表Ⅱ-2-3）。用いた情報は 1/10 細分区画土地利用データ（平成元年版）である。

「海水域」を除いてみた場合、静岡を除いた各地では「森林」が最大の割合を占めている。特に、兵庫と沖縄ではその割合が高く、80%に達している。しかし、その内容は、Ⅱ章2-2. 植生の部分でも述べたとおり、兵庫の場合はほとんどがコナラ林やアカマツ林の二次植生であるのに対し、沖縄の場合は、スダジイ林の自然植生がある程度の割合を占めている。

北海道と埼玉については、ともに 50%前後を「森林」が占めているが、この2地域はいくつかの点で大きく異なっている。まずⅡ章2-2. 植生で示したとおり森林の内容が異なる。さらにその他の土地利用をみると、埼玉は「建物用地」や「その他用地」といった都市的土地利用が多いのに対し、北海道では「荒地」が多い。この凡例における「荒地」は湿地、沼地、草地、裸岩地などをいい、自然性の高いところが含まれる。この地域の場合は湿地が主体であり、「森林」と「荒地」を合計すると相対的に自然性の高い地域は 80%を越えることとなる。

以上の4地域に比べて静岡の場合は圧倒的に「森林」の割合が小さい。ミカンを中心とする「果樹園」の割合の方が多く、最大の割合を占めるのは建物用地である。静岡市、清水市の中心街を含むこの地域は都市的な環境にあることを示している。

以上のようにこの5地域は土地利用を概観しても、それぞれが全く異なったタイプであることが明らかである。

次項では、それぞれの地域内について土地利用の特徴と大規模開発の傾向を記載する。

### 2-5-2. 各広域モニタリング地域の土地利用と大規模開発

各広域モニタリング地域の土地利用について、各道県が作成した土地利用現況図および国土数値情報、1/10 細分区画土地利用データ（平成元年版）の解析結果（図Ⅱ-2-1 2～図Ⅱ-2-1 6）によって分析し、あわせて地域内の大規模開発の状況を記載する。

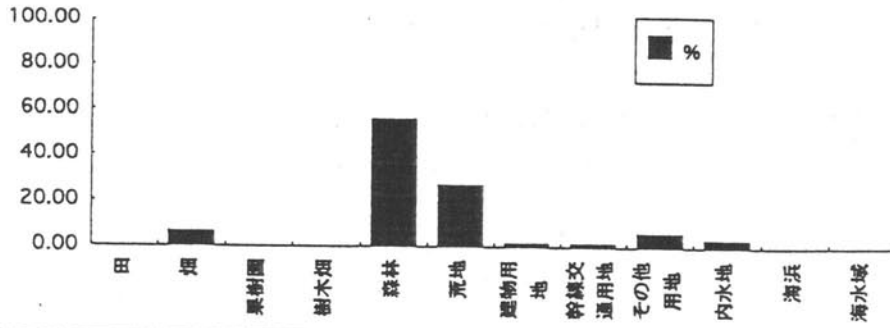
#### 2-5-2-1. 北海道（図Ⅱ-2-1 2 および図Ⅱ-2-2（位置図））

図Ⅱ-2-1 2 によって当該地域の土地利用を概観すると、当該地域西部に「森林」、東部は「畑」、南部は「建物用地」で特徴づけられる。そしてウトナイ湖を含む南北方向の軸を中心にして「荒地」が分布する。

西部の山麓斜面である森林地帯には既設4ヶ所、建設中2ヶ所のゴルフ場が存在する。個々の規模は大きく、後述する埼玉県ゴルフ場の5倍近い面積を有するものもある。これらはこの地域を南北に走る道央自動車道を中心に立地している。この地域は全体的に土地利用の単位が大きく、区画が直線的であることが特徴的である。

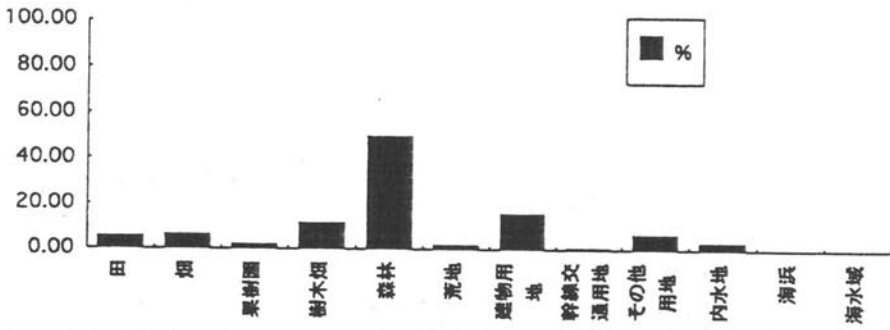
北海道

<644105>



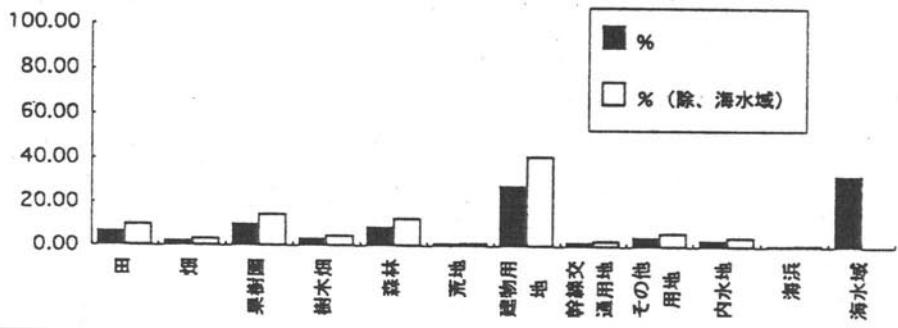
埼玉

<533962.72>



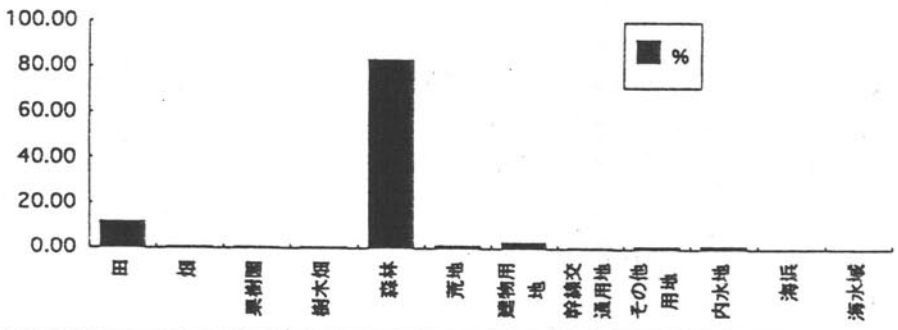
静岡

<523833>



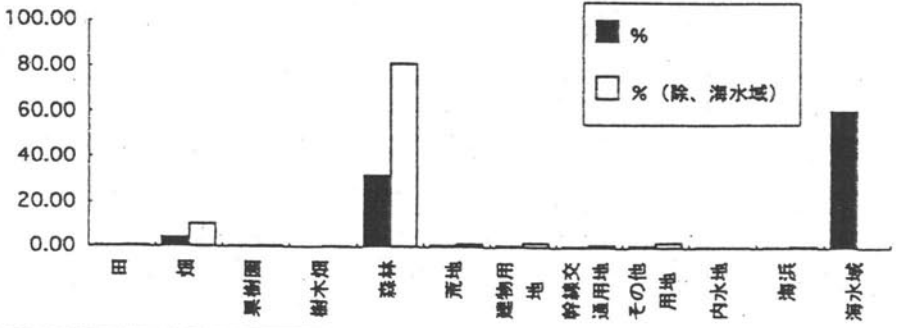
兵庫

<523423>



沖縄

<392767>



図Ⅱ-2-11 各広域エリアの土地利用現況比較図

表Ⅱ-2-3 各広域に列挙地域の土地利用現況比較表

北海道 <644105>

	度数	%	% (除、海水域)
田	3	0.03	0.03
畑	603	6.03	6.03
果樹園	0	0.00	0.00
樹木畑	0	0.00	0.00
森林	5582	55.82	55.82
荒地	2686	26.86	26.86
建物用地	128	1.28	1.28
幹線交通用地	108	1.08	1.08
その他用地	580	5.80	5.80
内水地	310	3.10	3.10
海浜	0	0.00	0.00
海水域	0	0.00	

兵庫 <523423>

	度数	%	% (除、海水域)
田	1147	11.47	11.47
畑	6	0.06	0.06
果樹園	4	0.04	0.04
樹木畑	6	0.06	0.06
森林	8290	82.90	82.90
荒地	102	1.02	1.02
建物用地	249	2.49	2.49
幹線交通用地	5	0.05	0.05
その他用地	75	0.75	0.75
内水地	116	1.16	1.16
海浜	0	0.00	0.00
海水域	0	0.00	

埼玉 <533962.72>

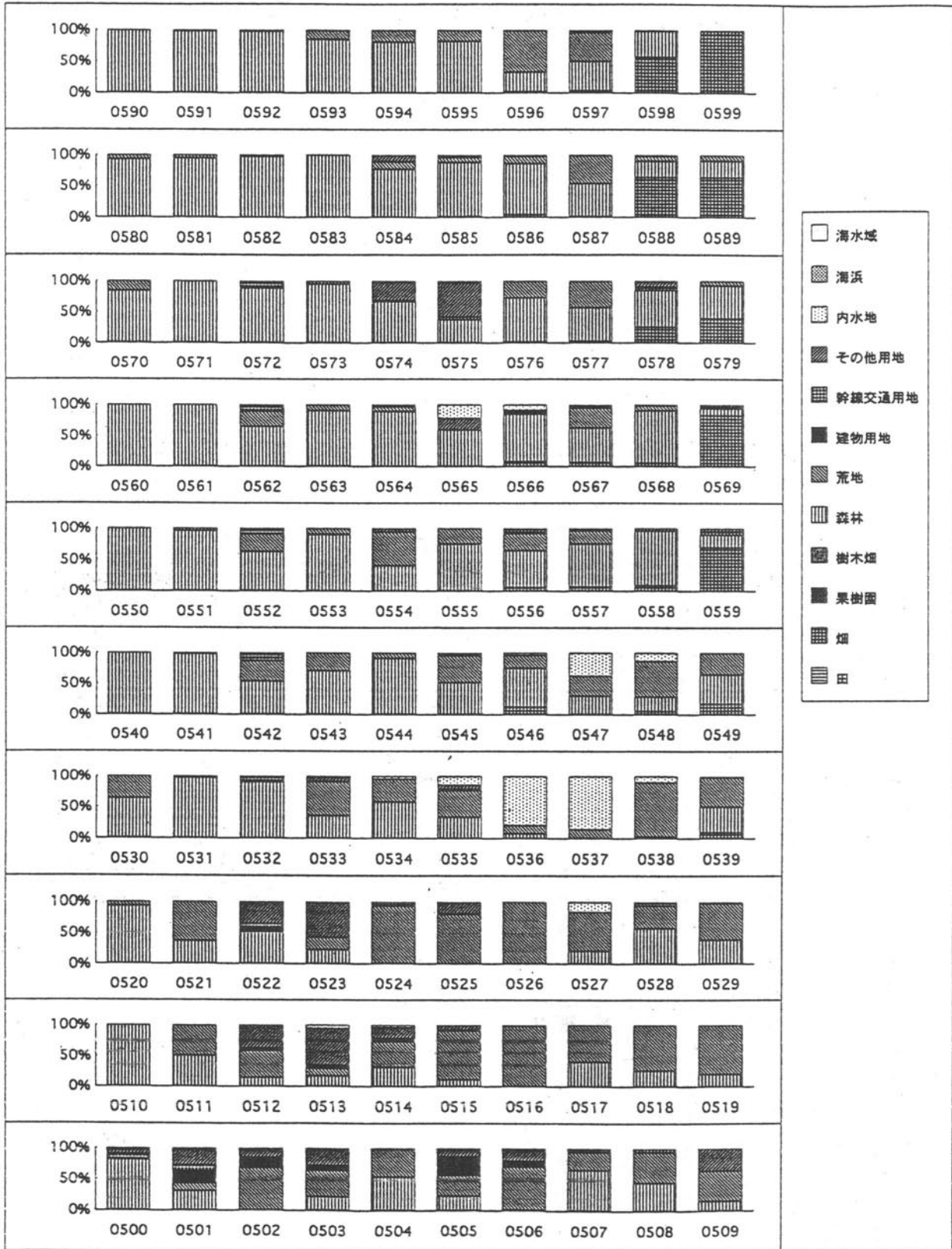
	度数	%	% (除、海水域)
田	537	5.37	5.37
畑	609	6.09	6.09
果樹園	171	1.71	1.71
樹木畑	1104	11.04	11.04
森林	4954	49.54	49.54
荒地	133	1.33	1.33
建物用地	1553	15.53	15.53
幹線交通用地	27	0.27	0.27
その他用地	639	6.39	6.39
内水地	272	2.72	2.72
海浜	1	0.01	0.01
海水域	0	0.00	

沖縄 <392767>

	度数	%	% (除、海水域)
田	16	0.16	0.41
畑	389	3.89	9.94
果樹園	17	0.17	0.43
樹木畑	3	0.03	0.08
森林	3166	31.66	80.91
荒地	59	0.59	1.51
建物用地	83	0.83	2.12
幹線交通用地	48	0.48	1.23
その他用地	91	0.91	2.33
内水地	10	0.10	0.26
海浜	31	0.31	0.79
海水域	6087	60.87	

静岡 <523833>

	度数	%	% (除、海水域)
田	638	6.51	9.78
畑	214	2.18	3.28
果樹園	954	9.73	14.63
樹木畑	301	3.07	4.61
森林	827	8.44	12.68
荒地	92	0.94	1.41
建物用地	2752	28.08	42.19
幹線交通用地	190	1.94	2.91
その他用地	415	4.23	6.36
内水地	86	0.88	1.32
海浜	54	0.55	0.83
海水域	3277	33.44	



北海道<644105>

図Ⅱ-2-12 北海道広域に跨る地域土地利用現況図

各棒グラフの下の数字は、第3次地域区画コード(図Ⅱ-2-2参照)。

各棒グラフは各第3次地域区画(ほぼ1km<sup>2</sup>)内の土地利用の割合を示す。

東部の丘陵地である農耕地帯は牧草地が中心である。千歳線はこの地帯を南北方向に走る。また千歳川放水路は当該地域の北東端を通る計画とされている。

南部の市街地は勇払原野が土地造成され、拡大してきたものである。工場の立地も多い。ウトナイ湖と市街地の間の部分に、勇払川上流の高丘地区、南東端の柏原地区は埋立造成がなされたものの未利用の状況である。柏原地区の造成地は苫小牧東部工業地帯の一部である。高丘地区の造成地は、勇払川に隣接する湿地帯であったと思われ、勇払川の河川改修と一連のものとして開発されたと思われる。勇払川の河川改修は上流と下流については既に終了しているが、中流域についてはウトナイ湖をはさんで今後改修される予定である。

ウトナイ湖北岸には、観光レジャー施設や自然観察施設があり、それに接して国道 36 号線が美々川沿いに北進し、南岸には室蘭本線及び千歳線、国道 245 号線、北側には国道 36 号線がとおっている。

なお、この地域全体として一般住宅地の面積はきわめて小さく、南部の沼之端付近などに若干集中するにすぎない。

#### 2-5-2-2. 埼玉県 (図Ⅱ-2-13 および図Ⅱ-2-4 (位置図))

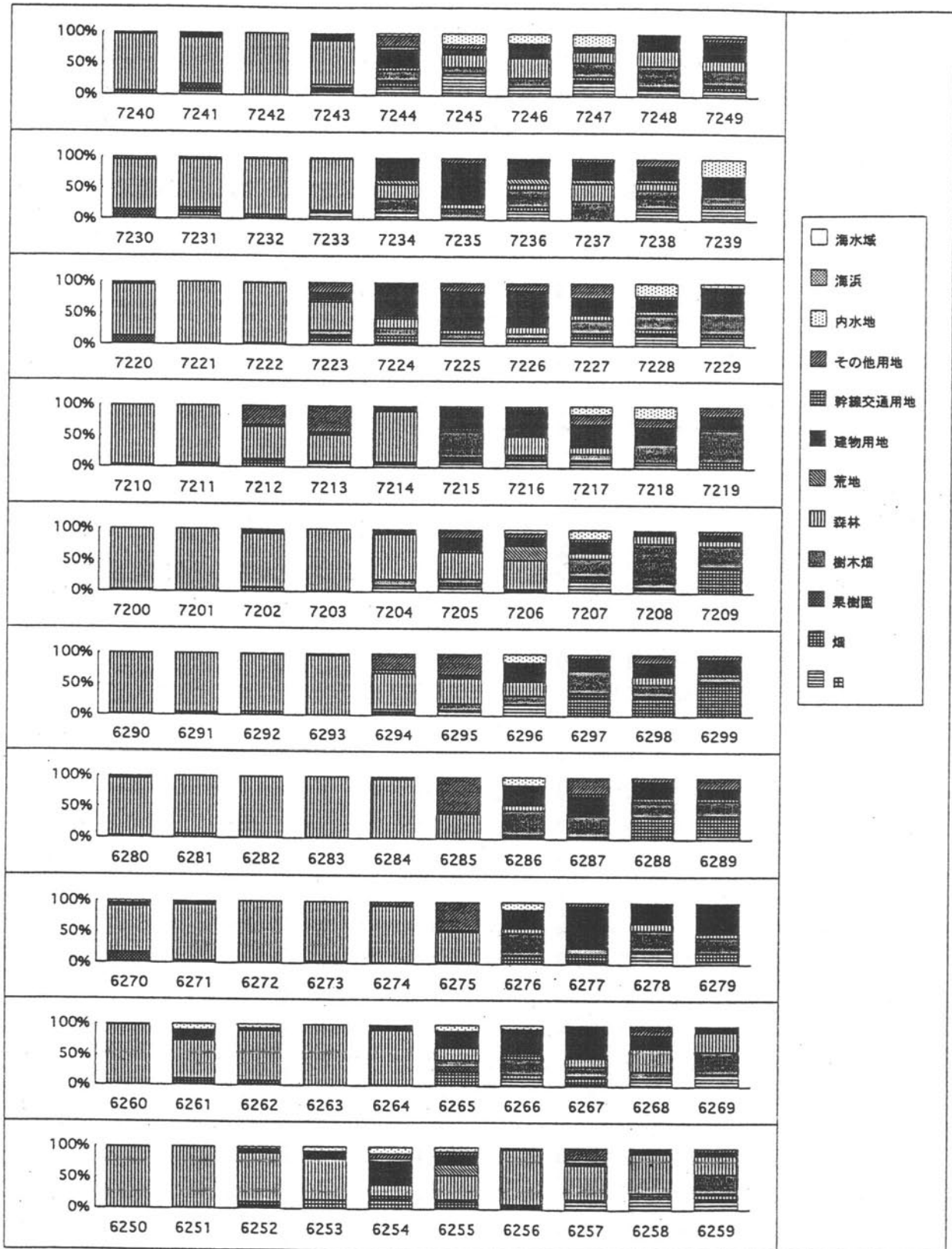
図Ⅱ-2-13 によって当該地域の土地利用を概観すると、西部の山地は「森林」、東部の台地・丘陵地は「建物用地」と「畑」「樹木畑」を中心とした農耕地で特徴づけられる。東部においては「建物用地」などの都市的土地利用と「畑」「樹木畑」などの農村的土地利用が混在している様子が読み取れる。西部は、針葉樹の人工林を主とした森林におおわれていて、高麗川、越辺川沿いに水田、普通畑、一般住宅地区などが存在している。また、日高市、毛呂山町などの山腹には、既設・造成中・計画中を併せて、8ヶ所ものゴルフ場が存在する。

東部の台地・丘陵地は桑畑、茶畑あるいは水田が広がる農村地帯であった。この付近の中心集落は、山地と台地・丘陵地の境界付近を走る八高線の毛呂駅に隣接する毛呂本郷付近と高麗川駅に隣接する四本木付近である。近年この台地・丘陵地には既設 8ヶ所、計画中 1ヶ所の住宅団地が存在する。また高麗川駅の北東には工場地区が形成されている。その他、最近小規模な宅地開発や中小規模の工業あるいはグラウンドなどの運動競技施設・文教施設が、放棄された耕作地や植林地あるいはわずかに残された雑木林などに展開しつつある。

#### 2-5-2-3. 静岡県 (図Ⅱ-2-14 および図Ⅱ-2-6 (位置図))

図Ⅱ-2-14 によって当該地域の土地利用を概観すると、西部および北東部は、「建物用地」や「幹線交通用地」といった都市的土地利用が卓越する。ただし、南西部と北西部の一部に「建物用地」と「田」とからなる地域がみられる。これらは基本的に沖積低地である。それらの低地に囲まれる有度丘陵に相当する部分には「森林」と「果樹園」(ミカン)を中心とする地域が広がる。「果樹園」分布は特に有度丘陵の北東部におおく分布し、有度丘陵北西部ではむしろ「樹木畑」(茶)が卓越している。そのほか「果樹園」に関しては、当該地域の北西端の丘陵や南西部の安倍川河口部右岸にもみられる。

低地の都市的土地利用がなされている部分はいくつかのタイプに区分できる。商業地は駿府公園の南西部側を中心に展開するのに対し、工業地帯は静岡駅周辺



埼玉<533962.72>

図II-2-13 埼玉県広域に列挙地域土地利用現況図

各棒グラフの下の数字は、第3次地域区画コード(図II-2-4参照)。

各棒グラフは各第3次地域区画(ほぼ1km<sup>2</sup>)内の土地利用の割合を示す。